



森の里 若宮公園の梅林
(撮影：小林会員)

令和 7 年 3 月号 Vol. 251
(2025 年)

発行：令和 7 年 3 月 10 日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

《冬季入込観光客調査》

行事区分：行事支援

日 時：2 月 9 日 (日) 9:00~16:00

場 所：厚木市内 5 拠点

参 加 者：10 名

広沢寺温泉 (七沢観光協会駐車場)

素晴らしい晴天でしたが気温は 5℃。8 時 20 分頃駐車場に到着すると、予想に反して既に車が 11 台駐車していました。折りたたみテーブル・パラソルを設置。パラソルの台に水を入れるため水道の蛇口を開けようとしたところ、凍結して水が出ませんでした。持参のバケツで近くの「ますや」で水を 2 杯汲ませただき、紙でロートを作ってなんとか水を入れることができました。T さんが到着してカウンター・パンフレットなどの準備を完了。



今日の観光客は意外に鐘ヶ嶽に登る方が多かったと思います。温泉や川魚料理に行く観光客は 3 時過ぎの方が多かったようです。驚いたのは 3 時頃に巡礼峠から白山を目指す女性の一人旅の方がおられたことです。七沢森林公園の駐車場に車を置いた方が良かったですよとお勧めしたのですが、「ここがいいんです」の熱心さに驚きました。徒歩で、巡礼峠に向かう若い女性を「お気をつけて」の言葉でお送りしました。

もう一人は中年の男性で、3 時半ごろ駐車場に到着して、鐘ヶ嶽を目指す方が、道順を尋ねられました。「暗くなる恐れがあるので、お気をつけて」の言葉でお見送り。この頃になると駐車場の車は半数ほどになりました。全く日が差さなくなり、じっとしていると寒さが足元から伝わってきました。規定時間になり、苦労して折りたたみテーブルを片付け、無事完了。本日の車は約 50 台、観光客はおよそ 200 名でした。(横山 記)

七沢温泉 (七扇駐車場)

今季一番の寒波で各地大雪の報道で心配した寒さでしたが、天気は晴天、風も無く、スタートの 9 時頃からは暖かくなり、南向きの七沢温泉調査場所は冬晴れの陽だまりとなり

ました。場所はいつもと同じですが、新しい電信柱が建っていました。現在、柱2本となっており、テーブルの設置場所は傾斜地となり、パラソルは開けませんでした。椅子の場所はさらに傾斜地でバランスを崩すと倒れてしまいました。次回は調査前に古い電信柱の撤去状況等、実施場所の確認が必要です。



観光客調査としては、いつも少ない歩行者ですが、今日は天気で、朝はハイキングのお客様です。どこに行くのかと声を掛けるとほとんどが日向薬師でした。薬師林道は昨年9月の豪雨被害で通行止めとなっていたため、道を心配されている人もいました。地図を持たない人からは、道を聞かれました。見城に行くという人は、先週愛宕神社から登り、今日は七沢温泉からということで登山口を探していました。

ハイキングのお客様の方々にはハイカーズガイドを渡し案内いたしました。

市外からのお客様で、七沢の温泉が好きで何度も来ている人からは、元湯玉川館、中屋旅館と日帰り温泉をやめてしまって残念。復活してほしいという声がありました。

次回、この場所ではハキングコース、林道、温泉などを最新情報で案内しなくてはと思いました。イベント下見の人とも話しました。3月29、30日でアウトドアイベントを中央公園で開催。七沢までシャトルバスを出し、山にも入って楽しんでもらいたいイベントのようです。厚木はアクセス良く、多方面からのお客様は駅近でイベントを楽しみ、さらに、近い森林公園、里山、温泉ではアウトドアを実践することも可能。一日厚木で楽しめます。多くのお客様に自然豊かな観光地としての厚木を知ってもらいたいと思います。

気持ち良さそうにツーリングのグループが走り抜けます。日向薬師からと思います。林道は自転車も含み一般車両の通行は禁止されていますが、やさしいヒルクライムとしては魅力があるコースなのだと思います。ここでのカウントは、ほとんどが車です。県外ナンバーも多く、方向は真っ直ぐ七沢温泉、右折して七沢荘方面目的は温泉と思いますが、車では話も聴けません。車でのお客様からアンケートが取れたらと、ここでは毎回思います。近所に住む観ボウのお客様から甘酒の差し入れをいただき、ありがとうございました。青空の下で終了いたしました。

(菅谷記)

七沢森林公園（出会いの広場）

日本を今季最強寒波が襲っていたこの日、七沢森林公園では冬特有の澄んだ空とキンと痛いような寒さの中、入込調査をスタートしました。

朝一番のお客様は小さなお子さん2人とお母さん。大人が首をすくめるような寒さの中、園内へ入って行かれましたが、お昼前に戻ってこられた時には「森の民話館」で作ったのでしょ、どんぐりや木の枝を使ったかわいらしい工作を手に、「寒くないよ、いっぱい遊んだ！」と真っ赤なほっぺで、にこにこお話をしてくれました。

またこの日は、朝から大きな画材を持った方も多くお越しになり、思いおもいの場所でキャンバスに向かわれる姿をお見かけしました。お話を伺うと、厚木市近隣にお住まいの写生会の皆さんとの事でした。



しばらくして太陽が暖かさを増し、天候が穏やかになると、ウォーキングをされるご近所の方、ご家族連れの方、ハイキングにお越しの方、またワンコを連れた方など、少しずつ足を運ばれる方が増えてきました。

その中、「この辺りでシモバシラの咲くところはあるかしら？」とご質問をお受けしましたが、残念ながらきちんとお答えすることが出来ませんでした。改めて観ボラとして、様々な情報の引出しを持つことの大切さを感じました。（毛利 記）

飯山温泉（中飯山自治会館）

最強寒波襲来の中、風を避け自治会館の角でも日当たりの良さそうな所に席を設置。この時期は寒さもあってか車で来られる方が圧倒的に多かったのですが、目的は観音様のお参りがてらロウバイ鑑賞だったようです。



ハイキング支度の方もそれなりに多く、初めてここにいらしたという方々にはハイキングマップをお勧めしたりルートを手短に説明し、年間を通した再来を願いました。ロウバイ目的の方々も帰り際に「まだ残ってましたよ」とか「見られて良かった」とおっしゃって下さったので、来年もまたお越し頂けるよう今年の花のピークは1月下旬だったことや、当ガイド協会でもその時期にロウバイ鑑賞を兼ねたハイキングなども企画しておりますので、どうぞ協会HP をご覧頂きご参加下さいませとお誘いしておきました。

上りでお声をかけた方々はたいていお帰り際にも立ち止まってお話し下さり、これも出会いを結ぶという、縁結びの観音様のご利益だなどと思いました。ちなみに、縁結びとは人と人に留まらず、人とモノ、人とコトなど様々な“出会い”も指すのだそうですね。

（トロンナムチャイ 記）

相模川三川合流地点（青少年広場）

今回の入込調査、季節柄寒波の心配がありましたが、快晴に恵まれ無事終了しました。担当の三川合流はバーベキュー客が多だろうと想像しましたが、小集団約 10 組のバラバラ程度でしたが、午後から厚木市、平塚市、伊勢原市の子供会連合会のタコ上げ大会が開催されるとの事で、約 200 名の親子さんが集合しました。子供達は各自自作のタコを大空に上げて楽しんでいました。見事な 10 個位の連タコもありました。役員のお母さん方は、2 個の大鍋を並べて、午後のおやつの豚汁を煮込んでいました。我ら二人共、しばらく大空に舞うタコの眺めを楽しませてもらいました。



市営球場では社会人 2 チームの練習試合が行われ、隣のテニスコートでも 10 人程度の若者が集まっていました。また以前にもお目にかかりましたが、“ベルマーレ”という自転車サイクリンググループのメンバー男女 15 人がかっこいい！ユニフォームに身を固め、宮ヶ瀬へのサイクリングに出かけていきました。やはり若者の行動力はうらやましいですね・・・相棒の S さんは多数のアンケートを取ってくれ、感謝、感激です。有難うございました。（山下武敏 記）

《 訪問ガイド研修「中原街道を歩く」 》

行事区分：訪問ガイド研修

(かながわガイド協議会、担当：かわさき歴史ガイド協会)

日時：2月14日(金) 9:30~12:30

場所：JR 武蔵中原駅～中原街道旧道～小杉御殿跡～等々力陸上競技場～丸子の渡し～東急東横線新丸子駅

参加者：会員2名

8時55分武蔵中原駅駅前広場には担当団体のかわさき歴史ガイド協会と協力団体のなかはら散策ガイドの会の皆さんが大勢配置についておられ、参加団体の方も既に何組か到着されていました。1班約10名で5班を編成し、厚木は、大磯、東海道ウォークガイドの会と7名の班。3名のガイドが前後につくとともに、横断歩道、信号、説明ポイント等要所要所に黄色の旗を持った人を配置し、安全への配慮を感じました。住宅地等を除いてハンズフリー拡声器スピーカーを使って説明していただいたので聞き取りやすいと感じました。



中原街道は、古代律令制の頃から東京の虎ノ門と平塚の中原(約60km)を結ぶ、ほぼ直線の道です。天正18年(1590年)徳川家康が初めて江戸に入ったときは、まだ東海道が整備されていなかったため、平塚から中原街道を通って行きました。東海道が整備されるまで、家康や秀忠は鷹狩や駿府への往復に利用していました。東海道が整備されてからは沿道の物資や農産物の輸送など物流の道となり、運んだ物資から「お酢街道」や「こやし街道」とも呼ばれるようになったそうです。古道らしく街道沿いには地蔵や庚申塔などの石造物が行く先々で見られましたが、鉄道が開通すると賑わいはそちらに移り、当時の面影は少なくなっています。そこで明治大正の家並みの地図や昭和の賑やかな施餓鬼の写真などを示して説明を受けると想像が膨らみます。小杉十字路には芝居小屋もあって、かつてロンドン、パリといわれたそうです。



世田谷城主吉良家の菩提寺泉澤寺では、系図を示して世田谷吉良家と忠臣蔵の吉良上野介が遠い親戚関係にあることや当日拝観できない市重要歴史記念物に指定されている銅造阿弥陀如来坐像(南北朝時代)、木造四天王立像(江戸時代宝永7年)の写真も示していただきました。本堂も市重要歴史記念物で江戸時代安永7年の再建で歴史を感じます。鎌倉幕府五代執権が中興の祖とされ、山門に北条氏の三つ鱗紋が輝く西明寺では地元の旧家石橋

原家、安藤家の大きな墓石群に当時の繁栄を感じました。

その隣は小杉御殿跡。江戸初期の将軍の休泊施設で、広大な敷地に陣屋、御倉、御賄屋敷などが立ち並んでいたそうですが、東海道が整備されてからは、次第に解体され、跡地は田畑となったそうです。今は住宅地となりましたが、前の道が城下町のようにカギ形に曲った道があり、現在の地図に小杉御殿の絵図を重ねた資料を配布していただき、広大な御殿に思いを馳せました。

等々カスタジアムでは、江戸初期の多摩川がこのあたりを蛇行して流れていて、今は川筋がまっすぐになったため、「等々カ」が川の両岸に分かれ、東京側にも等々カの地名があることを知りました。等々カの他にも川崎側と東京側に同じ地名がいくつも残っているそうです。割元名主（数か村を束ねる名主）の安藤家長屋門、昭和 10 年に開通した旧丸子橋親柱等を見学し、新丸子駅まで歩きました。

工夫を凝らし、当時の様子をご説明いただきましたかわさき歴史ガイド協会と協力団体のなかはら散策ガイドの会の皆さんにお礼申し上げます。（清田邦男 記）

《御朱印でめぐるあつぎ開運日帰り旅 2025》

行事区分：依頼ガイド

日時：2月23日（日）9：00～16：00

場所：愛甲石田駅～大巖寺～常昌院～いちご狩り～徳雲寺～七沢観音寺～本厚木駅

参加者：会員 3 名

厚木市観光協会主催「御朱印でめぐるあつぎ開運日帰り旅 2025」の支援を行いました。愛甲石田駅を徒歩で出発、道標、愛甲宿を解説しながら、最初の御朱印地大巖寺に行きました。ここではご住職の説明もありました。愛甲三郎の宝篋印塔がある隣の円光寺も訪ね、再度愛甲石田駅に戻り、バスに乗り込み、次の目的地愛甲三郎館跡へ向かいました。

今回は愛甲三郎になじみがなかった市外からの参加者が多く、愛甲三郎が厚木郷土の弓名人で、頼朝



常昌院内



の信頼が篤かった御家人であることを宣伝できました。バスの中では、道中の解説を観光協会から一任され、会員 K さんが厚木の河川、段丘、街道、いくつか指定道標も案内、さすが 40 年在住ならではの名ガイドで、お客様はしきりに頷いていました。なんと、運転手さんは、道標通過時に、スピードを落として協力してくださいました。

次の御朱印地、常昌院は諸仏が多く、また「東国花の寺百ヶ花寺」のひとつです。四季折々美しい花とハス池が有名で、鳶尾山の山裾に位置するため、眺めも素晴らしいお寺でした。いちご狩り、七沢荘でランチを頂き、午後は有名住職のいる七沢観音寺で最後の御朱印を受けました。巳年であったことから、白蛇の記念撮影が本日の一番の盛り上がりだったようです。ここで、雪が舞ってきました。帰路、引き続き市内の解説ほか、厚木市のクイズもあり、市内の方はあらためて厚木を知っていただき、市外の方には厚木のアピールができた一日であったと思います。今回の様な休日の開催は、家族連れ、若いご夫婦、女性グループの参加があり、大いに集客アップとなり当会にも参考になると感じました。（石川 記）



《 捨身飼虎の物語 》

(しゃしんしこ)

澤田 正弘

飯山観音の入口にある山門（仁王門）は令和2年（2020年）に大改修が行われました。左右の両脇間の金剛柵の中に安置されていた金剛力士像（阿吽の仁王像）は現在補修中で、3月には綺麗になって帰ってくる予定になっています。

さて、この山門の上部の木部になにやら3人の人間と思われる彫刻が見られますが、これは「捨身飼虎」という物語をあらわしています。

奈良県・薬師寺の加藤朝胤（かとうちょういん）管主が「金光明経巻第四」という古文書を「捨身飼虎の物語」として次の様に解説しておられます。



インドに大事（だいじ）という名前の王様がいました。この国は富み栄え、いつも正法をもって国民を導いていました。王様には3人の王子がいました。兄は大渠（だいご）、弟は大天（だいてん）、幼弟は大勇（だいゆう）という名前でした。ある日3人は森に遊びに出掛けました。すると7匹の子を連れた母虎が、親子共々飢えに逼られ瘦せ衰え、餓死寸前でした。王子たちは、飢えのあまりあわや我が子を食べてようとしている虎を目の当たりにし、大渠と大天の2人の兄は憐みの心を持ちましたが、末の大勇に向かって「虎は豹や獅子と同じく生肉や生血を食べている。私たちはこの虎の飢えを救うことはできない」と話し、その場を立ち去ってしまいました。

幼弟の大勇は、「人はみな自分の身を愛して他に恵むことを知らない。優れた人は、大慈悲の心をもってわが身を忘れて他を救う。私は百度千度生まれ変わっても身体は腐り爛れるだけです。この身は変わりゆくもので、常に求めても満たしにくく、また保ち難い。今私はこの身を捨て、飢えている虎の親子を救ってあげよう」と思い定め、少しも躊躇することなく進んで虎の前に身を委ねました。あとは白骨が辺りに散らばるのみでした。



「捨身飼虎図」は奈良・法隆寺大宝蔵院に安置してある「玉虫厨子（たまむしのすし）」の須弥座（下の段）の右側面に描かれています。この「玉虫厨子」は推古天皇（在位 592年～628年）が朝夕拝まれる念事仏として造像されたと伝わっています。「玉虫厨子」には玉虫が4500匹使われたといわれており、現在はそのほとんどが失われていますが、宮殿部（上の段）正面軒下の透彫に、翅（はね）の輝きがわずかに認められています。

「捨身飼虎図」は異時同図法といい一つの画面の中で同

じ人物が何度も登場して、時間の流れを表現する方法で、3枚の連続写真のようになっていきます。上は大勇が崖の上に立って服を脱いでいるシーン。その下は身を投げたシーン、下は落ちて虎に食べられているシーン。

ここに登場する大勇は、前世の釈迦であると言われていました。困窮しているものを見た時に「かわいそう」と思うだけで実際には行動しないことを戒める教えです。

私達の日常生活においても、転んでしまった人や、手を差しよべるべき人などに遭遇する事がありますが「恥ずかしい」とか「誰か他の人がやるだろう」と思って通り過ぎてしまう事がよくあります。自分の体を食べてもらう訳では無いので、今後は率先して実践したいと思います。

※玉虫厨子の写真2枚は詳説日本史図録第七版（山川出版社）から抜粋



最近の活動

日付	場所	内容	参加者
2月 8日	アミューあつぎ	定例会	会員 13名
2月 9日	市内5拠点	入込観光客調査	会員 10名
2月 14日	川崎市	かながわガイド協議会 訪問ガイド『中原街道を歩く』	会員 2名
2月 20日	緑ヶ丘公民館	緊急役員会	会員 4名
2月 23日	厚木市内	あつぎ開運日帰り旅	会員 3名
2月 24日	日向山～亀石	下見 企画ガイド 「奥七沢ハイキング」	会員 6名
3月 5日	宮の里 第三集会所	編集会議	会員 2名

編集後記

厳しかった冬の寒さもやっと終わりそうです。ウエザーニュース社による今年の厚木市の開花予想は相模川桜土手で3月23日（満開は4月3日）となっています。「市政70周年記念第61回あつぎ飯山桜まつり」が3月29日（土）30日（日）の2日間、飯山白山森林公園桜の広場で開催されます。さらに「不動産のミツマタ鑑賞の観光客」への対応や、金剛寺を対象とした「春の文化財一般公開」のガイドなど、当会への行事支援要請があります。皆さまの積極的な参加をお願い致します。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘